

源となることが出来るならば更に窮極に於て自動車運送の發達を助長する一手段ともならうかと考へるのである。今日の自動車業の經營者はこの種の租税の新設に對しては極力反對するかも知れないが、長期に亘る眞の自動車運送を望むとすれば正に己を得ざるものであると信るす。(一九三三・一三二)

道路の今昔

藤原俊雄

昔は道路といへば人の徒歩すべき處であり、稍進んでは駕籠を擔ぎ、大八車を曳く場所と云ふ位より大なる意味を有しなかつたものである。それ故に鐵道の出現は非常な歡迎を受けて、これが爲に道路は愈々無用物視され、道路の築造などと云ふことは全く閑却されて仕舞つてゐたのである。處が千九百年頃から自動車が行流し始めると共に道路に關する考へが一變して、自動車の爲に歐米各國とも道路の改築に頗る努められることとなり、全く自動車が道路の改築を速進して歐洲各國の都市は悉く鋪装せられ、又國境を越えて國道が貫通すると云つた様な有様で、彼の歐洲大戰に際して獨逸の軍隊が白耳義に侵入し得たのは全く道路と自動車のお蔭であつた由で、自動車と道路に對する世界のセンセーションを捲き起したのである。自動車が實用されてから近々十五年未滿にして驚

くべき長足の進歩を遂げたのは、一に各國陸軍が自動車の發達と共に之に着眼し、軍用に耐え得る處の自動車の製造に對し、各國競つて補助金を與へて獎勵せし結果で、これと同時に道路の改造を企圖したと云ふことは即ち戰雲漲る歐洲諸國相互の妬みと嫉みが、今日の道路を完成せしめた形であり、坊間屢々自動車が道路を破壊すると云ふ攻撃の聲を聞くが、焉んぞ知らんその五噸七噸の破壊力を有する自動車が、却つて道路を堅牢ならしめた結果を生んでゐるのは、共に相對比して皮肉な事象であり、「禍も三年すれば福となる」と云ふが、この世の中は凡てのものが働いて益をなすのだと云ふ、大處大局から人生の幸福を求めねばならぬのではあるまいか。

米國の道路

米國の道路の如きも全く自動車のお蔭に依て改善鋪裝せられたものであるが、全國の如き廣袤何千哩に亘る大國にあつては道路の設計も元來稍大仕掛に出來てはゐたが、その大都市に高層樓を有する一流文明國としては未だ富と人口の普及を地方に迄計る事の出來ぬ状態であつたことは田舎の道路の上に歴然と示されてゐたのである。米國の田舎には柿蕘シヤウ木造のバラック建築が充ちて居る様に道路も凸凹が多く、雨が降れば淵をなし、晴天には路面が恰も棉と化してうづ高く積りその軟化せる棉土に農作運搬の馬車の車輪が半以上も埋まつて、埃の立つ有様は文字通り黃塵萬丈の光景を呈し、路傍の樹木は埃を浴びて眞白く、青葉などは見ること出來ぬ地方が多かつたのである。處

が自動車の發達と共に此等田舎の道路に到る迄完全に舗装せられる様になつて千九百十二年頃から自動車業者が聯合してリンコン紀念の爲、東西に貫通する國道建設協會を設け、當時から數年間は米國內を旅行すれば停車場、汽車、汽船の待合室、その他、凡そ人の集まる處は何處にでもリンコン紀念の國道建設の看板を見ないことがない様であつた。斯くの如く道路改善の爲に努力した、米國の自動車業者等は商賣上から出發した私的動機があつたことは勿論であらうけれども、一面又時代の要求が非衛生な道路をその儘放置する能はぬ状態に迄進んだが爲めであらう。

斯くして自動車は米國の沿道住民を非衛生状態から救済したのみならず、市街地道路の舗装を實現せしめたることに依て市民生活の衛生に貢獻し、馬車を驅逐した結果、馬糞の爲に道路を汚すことを防止し得たのである。十九世紀の末葉頃迄は歐米の都市を歩いて見ると、路傍の地下水に通ずる雨水の排け場を造つてゐる、凹みに何か分らぬ美しい塵埃がうづ高く積つてゐるのを見たものである。之は乾燥した馬糞の吹寄せられたもので、即ち消化未了のまま排泄せられた糞の變形であり、それが遇々、俄雨で路面が滯をなす様な時には水面に諳うて路面一杯に擴がり、寔に馬車を使用する西洋文明の不潔さを思はせたのであつたが、自動車が普及した今日では最早かうした光景は見ることが出来なくなつたのも、一つの慶すべき事柄である。又歐米大都市に於ける市内運轉の機關として二頭立、四頭立等の馬車が主として用ひられた頃には、車輪の爲に道路の壞れるのを防ぐ手段として、市場に近い所や卸問屋の輻輳せる街衢はその道路悉く餒頭石を以て疊まれてゐたのであつた。その

石の列べ方は整然たるものではあつたが、石と石との間隙に車輪が擦れ込む毎に馬の蹄と馬車の金輪は火を發して乗り心地の悪いこと夥しかつたものである。馬車の車輪にゴム輪を入れることは自轉車が發明せられた千八八〇年以後のことであつて、自轉車の流行が百パーセントに達した時には進んで自動車實用時代となり、自動車普及して飛行機が擡頭すると云つた順序に進歩して來たのであるが、自動車の擡頭時代には一時、鐵道が衰微するのではないかと危まれた程自動車の進出が目覺しかつたが今はそれが鐵道は長距離交通運輸に、自動車は短距離にと、各長短相補ひつゝ利用せられる様になつて來た。寔に此の過去五十年間に於ける世界の變遷は人類歴史上最も顯著なものであらうと思はれる。

米國に於ける道路改善費は過去二十五年間三億弗乃至七億弗位迄を計上せられてゐる。それでも今尙鋪裝未了の國道もあるが市街地にあつては最早餓頭石街を見ることが出来なくなつたのは兎に角驚くべき進歩であると云はねばならぬ。

我輩一九一二年に米國に旅行した際ニューオルレアンの町に於ては僅々二三十哩よりしか鋪裝道路は出来てゐなかつたが紐育にあつては既に二千三百哩の鋪裝完了道路を有し、それは丁度紐育と倫敦を繼ぐ丈の長さである。何と偉い事ではないかと市の技師の自慢話を聞いたことであつた。

我國の道路

我國の道路の如きはまだ、路面に於ても幅に於ても又ツレネージ制度に於ても市街地の道路としては殆んど見るべきものがない。東京市にあつても永い間依然舊幕時代の様子を歴然と有し、唯警視廳の努力に依て昔日の如く犬糞が轉んで居なくなつたのと、市の設備に依て街燈が點ぜられたに過ぎず道としては見るべきものがなかつたのである。

先覺の士は夙に街路及び國道は歐米のそれの如く改善せられねばならぬことを痛感してゐたが、一般國民の智識が進歩して時代的要求とならなければ、實行する能はぬ事柄であると考へて居られたので、尾崎市長時代に最も頑迷な市會議員を歐米の道路視察に派遣したことがあつた。市長の意志は道路の舗装と下水設備の視察をして貰ふ處にあつたのであるが、歸朝後、その視察感想談を聞くに及んで、曰く「歐米人の様に犬猫の如く道路を靴で歩いては道路の舗装も必要であらうが、我國には下駄と云ふ重寶な物があり、殊に雨天の際は足駄を穿くのだから舗装道路などは毛頭必要がない。又下水の如きは町内の萬人足に掃除させればよいではないか」と云ふことで道路改造にも何にもならず仕舞つたと云ふこともある。

こんな有様を経て來たのではあるが、床次竹二郎氏が内務大臣たりし時、道路改良會なるものが生れて本誌の刊行を見、組織ある運動を意義ある調査をなされて、一般の道路に對する觀念を向上せしめる様な努力が續けられてゐるが、漸く今日に到つては道路に對する一般の觀念が進んで來て、昔日の様な考へを抱く者は殆んどなくなつたことは寔に欣ばしい現象である。

東京市の街路舗装は大阪市やその他地方の大都市に比して稍遅れてゐた感があつたが後藤伯が市長として立たれるに及んでその面目を一新した。後藤伯は青年時代に醫學を學んだ丈あつて都市の衛生に留意せられ、尙臺灣民政長官時代に臺北市街は現代的文明の都市設備を施された經驗もあり、伯の施政の結果は稍東京市の面目を新にした感があつた。特に小學校鐵筋混凝土建築が實現されるに到つてその放水便所噴水飯料水等の文化的設備が整へられた結果兒童達にも稍潔不潔の意識を實際教授する機會が與へられて餘程衛生觀念の注入が出来たと云ふことはその後に行はれた震災後の大改善に當つて市民の肯定を得る處の前提となつたのである。

宮城前の大道路が舗装され、地下鐵道も出來し、品川上野間の道路も過去五十年間に數回の擴張が行はれた。尙大正道路の貫通、丸の内に於ける洋風建築の完成等を見る現在嘗て頑迷なる説を持して文化設備の完成を妨げた迷士達を冥土から招き寄せて見せ度いものである。

かくして我東京市の道路も次第に文明都市としての面目を加へつゝはあるが、彼の大阪、明石間の國道完成舗装修了が對岸の世界的絶景を擅に取り入れて完成したのを見る時、些か羨望の感なきを得ない心持がする。

孰れにしても隔世的の事實が目の前に羅列せられたことは、我國民生活の向上を如實に示すものであつて、國民生活の強みを覺えしめる一大快事であると云はねばならぬ。願ひて今は昔の感に堪えない次第である。